

立命館アジア太平洋大学 第8回 学長候補者選考委員会議事録

日 時 : 2026年7月7日(火) 18時00分～19時55分

場 所 : APU本部棟3階 第5会議室(ZOOM接続あり)

委 員 : 委員長 浅野 昭人(副学長・常務理事)
委員 陳 慶昌(アジア太平洋学部 教授)
VIAS Utpal(アジア太平洋学部 准教授)
柳 ボスル(国際経営学部 准教授)
福山 公博(国際経営学部 准教授)
四本 幸夫(サステイナビリティ観光学部 教授)
山根 友美(サステイナビリティ観光学部 准教授)
JUNG Jonghee(言語教育センター 准教授)
鶴原 利泰(教育開発・学修支援センター 准教授)
日野 智志(立命館アジア太平洋大学事務局 次長)
寺井 俊裕(アドミッション・オフィス(国内) 課長)
金剛 理恵(アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
武田 悟(全学企画オフィス 課長補佐)
眞次 純一(校友)
UWINEZA Celine(校友)
富永 有香(校友)
Dube Tanatsiwa Christabel(在校生 特命副学長)
荒牧 順子(APU国内学生後援会)

選考管理委員: 吉川 卓郎(委員長)、ACKARADEJRUANGSRI P.、宮原 久実

事務局 : 佐間野 有希子(立命館アジア太平洋大学事務局次長)、
山本 直樹(全学企画オフィス 課長)、小鶴 恭子(全学企画オフィス 職員)

※ 下線は欠席者

(委員18名、出席者18名、委員会成立)

(議事録署名人: VIAS Utpal、柳 ボスル)

【議題】

1. 第7回委員会の議事録承認

→承認。

2. 公募のあった候補者の書類選考結果について(報告)

浅野委員長より、書類選考結果について説明があった。

(浅野) 自薦と他薦の重複する候補者の書類選考にあたっては、自薦・他薦の別を明記したうえで提出するよう要請していた。しかし、一部委員の評価において、自薦・他薦の区別が明確でないものがあった。このため、事務局の判断で、記載がなかった委員に対して確認を行い、回答が得られたものについては、その内容を集計結果に反映した。一方、事務局が自薦・他薦の記載の有無を確認することは適切ではないとの意見が示された。また、自薦・他薦の記載がない評価は、無効票として取り扱う可能性もあるとの指

摘があり、当該委員の評価は集計結果に反映していない。また、自薦・他薦の記載がなかった評価をすべて無効票とした場合の集計結果は、画面共有で示した資料の通りとなる。

今回の指摘を踏まえて、事務局からの確認に対して回答が得られた評価については有効票として取り扱うべきか、それとも自薦・他薦の記載がなかった評価はすべて無効票として取り扱うべきか、委員会で判断したい。

(福山) 事務局が準備した資料に示している内容で問題ないと考えている。

(寺井) 福山委員と同様に考えている。

(Dube) 1名の委員を除く全員が各候補者について自薦・他薦の別を示しており、これらの結果を集計対象としないことは合理的ではないと考える。そのため、本件については事務局が準備した資料に示している方法で進めるのが適当であると考えている。

(陳) 同一人物なので、自薦と他薦は統合すべきだと考えている。

(眞次) 自薦・他薦で候補者となっている方々について資料を確認したところ、多くの委員が同じ候補者を1位または2位に順位付けしている。そのため、自薦・他薦の結果を別途集計する必要性は高くないのではないかと考える。

(浅野) 選考委員1名からは自薦・他薦の区別について回答を得られていないものの、その他の委員からは回答を得ている。異論がなければ、事務局が資料で示している集計結果に基づいて選考を進めたい。

(浅野) 特に異論がないため、事務局が資料に示した集計結果で進める。

3. サーチ会社からの推薦リスト

サーチ会社より推薦リスト2名について報告があった。

(眞次) 1人目の候補者については、APUの目指す方向性に合致した方であるとの印象を受けた。一方で、この方が学長に就任した場合、貴社としてどのようなリスクがあると考えているか、お聞かせいただきたい。例えば、多くの役職を兼務されていることから、業務多忙によりAPUの校務運営に十分な時間や労力を割くことが難しくなる可能性はないか、といった点である。

(サーチ会社) 現職で様々な要職に就いているため、ご指摘の点がリスクとして考えられる。

(鶴原) 1人目の候補者については、これまで様々な組織においてトップとしての経験を重ねてこられた点を高く評価している。一方で、本学は大学であり、大学運営には民間企業の経営とは異なる特性があると考えている。その点を踏まえ、大学のトップとしての適性或大学運営との親和性について、どのように評価されているかお聞かせいただきたい。

(サーチ会社) ご本人からは、以前、副市長に就任した際にも「民間企業出身者が行政職を担えるのか」といった声があったと伺っている。しかしながら、実際にはそうした立場で成果を上げてこられた実績がある。確かに、学术界と事業会社では組織の特性や意思決定のプロセスに違いがあるものの、多様な関係者と協調しながら調整を行い、組織をより良い方向へ導いていくという点では共通する部分も大きいと考えている。そのため、これまで培ってきたマネジメント経験は、大学経営においても十分に生かされるのではないかと考えている。

- (鶴原) 1 人目の候補者について、本学のどのような点に関心を持っていたのか。
また、本学の将来などについてどのようなことを語っていたのか。
- (サーチ会社) ご本人は、APU について「これからの時代になくてはならない大学の一つである」と評価していた。また、今後の日本を支える若者の半数が留学生という特色を有する大学であり、そのような教育環境には大きな意義があると述べていた。その上で、自身にご縁があれば、APU をさらに発展させ、より良い大学にしていきたいとの強い意欲を語っていた。
- (UWINEZA) 1 人目の候補者について、国際学生の日本国内での就職支援という観点から、この方がこれまで培ってきた経験やネットワークをどのように活用し、卒業生とのつながりを深めていけると考えているか。
- (サーチ会社) 国内外での勤務経験や要職での経験が APU にとって良いネットワークやコネクション作りの一助になると考えられる。
- (金剛) 2 人目について、APU に対する印象や評価はどうか。
- (サーチ会社) ご本人は、過去に APU の学生を対象とした講演を行った経験があり、その際に接した学生の真剣なまなざしや質の高い質問内容が強く印象に残っていると語っていた。また、その経験を通じて APU に対して非常に良い印象を持つようになったとも述べていた。
- (鶴原) 2 人目の候補者について、資料には「APU の国際的プレゼンスの向上と教育研究の発展に貢献できる」と記載されている。この方が金融分野に深い知見と実績を有していることは理解しているが、本学には金融以外にも多様な学問分野が存在する。そのような中で、本学全体の教育・研究の発展にどのような形で貢献できると考えているか、ご説明いただきたい。
- (サーチ会社) ご本人のバックグラウンドは金融分野にあるが、海外勤務を通じて多様な事業会社や組織との接点を持ち、幅広い分野に関わってきた経験を有している。また、大学院では国際関係分野で修士号を取得しており、金融分野にとどまらず、国際関係や社会課題をはじめとする幅広い分野に強い関心を持っていると理解している。
- (武田) 2 名の候補者ともに、一定の年齢を重ねている。健康状態はどうか。
- (サーチ会社) 健康状態は個人情報に関わる事項であるため、両名に対して詳細な確認は行っていない。ただし、現時点では業務遂行に支障が生じるような健康上の問題はないと聞いている。

4. 面接選考に進む候補者の選抜について

浅野委員長より、面接選考に進む候補者の選抜について説明があった。

- (福山) 事務局提案のとおり、書類選考の結果による上位 6 名に加え、サーチ会社から推薦のあった 2 名を含めた計 8 名を第 1 次面接の対象とすることが妥当であるとする。
- (日野) 福山委員と同じく合計 8 名が妥当だと考えられる。
- (金剛) 1 次面接は最大 10 名ということだったが、2 次面接に進む候補者は何名の想定か。
- (浅野) 第 2 次面接に進む候補者については、面接終了後に順位付けを行い、その結果に基づいて総長へ推薦する。なお、総長へ推薦する候補者数については「複数名」と定められているため、推薦人数は 2 名以上となる。よって、2 次面接に進む人数も 2 名以上である。
- (金剛) 公募による書類選考結果の上位 6 名に、サーチ会社からの推薦者 2 名を加

- えた計8名を第1次面接対象者とするということでも差し支えないと考える。一方で、サーチ会社推薦者については、その経歴や本学に対する理解・期待の高さを踏まえると、公募による書類選考結果の上位3名に推薦者2名を加えた計5名を対象とする方法も考えられるのではないかと考える。
- (Dube) 書類選考結果の上位6名に加え、サーチ会社からの推薦者2名を含めた計8名を第1次面接の対象とすることが適当であると考えている。
- (鶴原) 面接日程は2日間確保されていることから、候補者数を8名とすることに大きな支障はないと考える。また、第1次面接の段階では、できるだけ多くの候補者を比較・評価できるよう、選択肢を広く確保しておくことが望ましいと考える。
- (浅野) 第1次面接については、書類選考上位6名にサーチ会社推薦者2名を加えた計8名を対象とすることで進めたい。ただし、面接日程の調整の結果、2日間で8名全員の面接実施が難しい場合には、公募による書類選考上位3名およびサーチ会社推薦者2名の計5名を優先的に対象者として確定することとし、柔軟に対応させていただきたい。
- (浅野) 第1次面接については、8名の候補者を対象として選考を行うこととする。なお、日程調整等により対応が困難な場合は、5名を対象として選考を行うことを併せて決定する。

5. 面接選考の日程および面接委員の選定について

浅野委員長より、面接選考の日程および面接委員の選定について提案があった。

⇒各区分で調整を行った結果、教員区分については教員委員間で調整のうえ事務局へ報告することとし、職員区分については日野委員、校友・学生・国内学生後援会区分については眞次委員が面接委員を務めることとなった。(後日、教員区分の面接委員については、陳委員および福山委員とする旨報告があった。)

6. 面接選考方法および進め方について

浅野委員長より、書類選考の評価項目および選考の進め方について説明があった。

- (金剛) 事務局案では、第1次面接を実施する8名の候補者のうち、各委員が上位3名を評価することになっているが、8名を評価の対象としてはどうか。
- (福山) 金剛委員の意見に賛成。
- (鶴原) 金剛委員の意見に賛成。
- (金剛) 当日の質問項目について、資料に案として記載されている質問をすべて応募者に対して行うということではなく、応募者の経歴や面接での回答内容等を踏まえ、その場で適宜選択して質問するという理解でよい。
- (浅野) その通り。
- (浅野) 面接した8名を評価の対象としたい。
- (Dube) 各区分から面接委員が選出されているが、面接委員以外の委員が応募者に確認したい事項や質問案を持っている場合は、各区分の面接委員がその内容を取りまとめ、代表して質問するという理解でよい。
- (浅野) 面接において応募者へ質問できるのは面接委員に限られる。そのため、面接委員以外の委員が応募者に確認したい事項や質問したい内容がある場合は、所属する区分の面接委員と事前に調整していただきたい。